

銀行の役割

——社会主義計画経済諸国の場合——

齋藤正

目次

まえがき

- 一、社会主義諸国における銀行設立の理念
- 二、社会主義諸国の銀行制度
- 三、銀行の本質的機能
- 四、金利機能と信用統制

まえがき

わが国をはじめ西側諸国の銀行には、いろいろの種類

があり、その役割にも相違がみられる。銀行は家計、企業およびその他から預金を受け入れて、これを家計、企業およびその他に貸出を行ない、また有価証券投資に運用している金融仲介機関 (financial intermediary) の一種である。このように銀行は他の金融仲介機関と同様に信用の仲介という機能を果している。これと同時に、銀行は通貨 (当座預金、普通預金) および準通貨 (定期性預金) の取扱いを認められているわけで、単なる金融仲介機関というばかりでなく、通貨の供給機関という役割を果している。このように、銀行が一国の支払制度の重要な一環を形成しているので、銀行には他の金融機関に対するもの

とは違った重大な責任が課されている。

ソ連、東欧諸国など集権的計画経済諸国においても、現在のよ様な「モノバンク」制度（単一銀行制度）が形成されるまでは、多くの種類の銀行があった。しかし、ソ連では、一九一七年一〇月の社会主義革命で勝利を収めた後の同年一二月全露中央執行委員会により採択された「銀行国有化令」に基づいて、これまでであった多くの銀行が統廃合された。その後若干の変遷をへて現在のよ様な銀行制度が樹立された。

一方、第二次大戦前における東欧諸国の銀行制度は、経済の発展段階の相違によりそれぞれの国において若干の違いはみられたものの、欧州諸国の銀行制度に類似した形態をとっていた。しかし、これら諸国も第二次大戦後の人民民主主義政権樹立以後、ソ連の銀行・金融制度をとり入れることとなった。すなわち、これら諸国では、ソ連の経験に基づいて、銀行を資本家の手から奪取し、これを社会主義経済発展のために役立たせることとなった。つまり、銀行の社会主義的改革が行われ、その結果銀行の役割・機能も変った。

社会主義諸国の銀行も、西側諸国の銀行と同様、国民経済各種部門に信用を供与し、企業および企業合同の製品の生産・販

売ならびに投資計画の遂行を促進し、支払制度、貨幣流通の調節に大きな役割を果している。

社会主義諸国、つまり集権的計画経済諸国の実体経済についてのわが国の調査・研究水準は、現在かなり高い水準にあると思われる。しかし、これら諸国の銀行、信用、通貨等の問題に関する調査・研究は未だ十分とは言えず、その実体については余り紹介されていないのが実情である。このことは理由のないことではない。すなわち、これら集権的計画経済体制をとっている諸国では、その資源配分の中核となっているのが物資需給計画であり、資源配分面で果す価格や市場機構の役割は西側諸国の自由主義経済体制におけるよりも極めて小さい。つまり需給の変動に基づく市場経済の機能は極度に制限されており、利率、利潤率が計画当局のなかにおいて大きな役割を果していない。このことが集権的計画経済諸国の投資効率を悪化させ、ひいては経済効率を低下させる結果となった。

このような事情から、これら諸国では、一九六〇年代中頃から経済効率をあげるために、程度の差はあれ、経済改革が実施され、銀行信用、金利機能、価格、利潤、通貨流通の強化が重視されるようになった。以下社会主義諸国の銀行についてその

国民経済において果している機能・役割を若干考察したい。

一、社会主義諸国における銀行設立の理念

各社会主義諸国の銀行制度は、いうまでもなく、その国の経済、伝統、対外経済関係などの影響の下に形成された。銀行制度発展において重要なことは、社会主義に特有な共通の法則性によって規定されていることである。

社会主義金融制度創設のための必須の条件となったのは、プロレタリア革命の過程で銀行の社会化、すなわち、国有化、公有化が行われたことであり、多数の銀行が統合あるいは廃止されたことである。すなわち、社会主義諸国では、土地の国有化、諸工場、輸送業、通信手段の社会化およびその他の措置とならんで、銀行の国有化への移行が、新しい社会・経済制度を樹立するための重要な要因となった。こうした銀行の社会化がその国の国民経済においてどのような意味をもっていたかについては、次のように要約することができる。その第一は、ブルジョアジーの財政力を破壊し、反革命勢力が貨幣資金を利用することができないようにしたことである。第二は、外国資本に対する依存を破壊したことであり、第三は、プロレタリアートが

社会主義建設のために資金を利用することができるようになったことである。さらに第四には、社会的生産物の生産と配分に対する計算と統制を行うために銀行機関を利用することができるようになったことである。⁽¹⁾

銀行社会化の過程をみると、原則として中央銀行の占有と民間銀行の国有化が行われ、外国銀行の設置は認められなくなった。このような社会主義諸国における信用制度の組織と活動の基礎には、当然のことながらレーニンの原則が貫かれている。

レーニンは、「さしせまる破局、それとどうたたかうか」のなかで、銀行国有化の原理、必要と意義について次のように述べている。

「銀行は、周知のように、現代の経済生活の中心であり、資本主義的国民経済制度全体の主要な神経中枢である。『経済生活の規制』を口にしたがら、銀行の国有化の問題にふれないのは、ひどい無知をさらけ出すことであるか、でなければ、はじめから実行しないつもりで、はでな文句や大げさな約束をならべたてて『庶民』をだますことを意味する。」

銀行業務を統制し、規制しないで、パンの供給や、一般に生産物の生産と分配を統制し、規制しようとするのは、ナンセン

スである。……では、銀行を国有化する意義は、どこにあるのか？……

それは、個々ばらばらの銀行とその業務をほんとうに統制することは、（たとえ営業の秘密その他が廃止されたとしても）まったく不可能だという点にある。なぜなら、貸借対照表を作成したり、架空の企業や支店をつくったり、替え玉の名義人を立てたりなどするときにつかわれる、きわめて複雑な、こみいった巧妙な手口を追求することは、とてもできない相談だからである。……銀行が国有化される場合にはじめて、国家は、どこへ、どのように、どこから、いつ、何百万何十億の金が流されるかを、国家が知りうるようにすることができる。また、資本主義流通の中心、主軸、基本機構である銀行を統制することによってはじめて、口さきではなく、実際に、経済生活全体の統制、すなわち重要生産物の生産と分配の統制を組織し、『経済生活の規制』を組織することができるのであって、銀行を統制しなければ、『経済生活の規制』は、かならずや庶民をだますための大臣流の空文句に終わる運命にある。銀行を一つの国立銀行に統合したうえで、銀行業務を統制することによってはじめて、たやすく実行できる他の諸方策とあいまって、財産や

所得の隠匿を防いで、所得税のほんとうの徴収を組織することができるのである。……」⁽²⁾

銀行活動についてのレーニン主義的原理は、生産手段の社会的所有と社会主義的経済制度に基礎を置いており、社会主義経済の計画的性格、経済主体としての国家の特別な役割、社会主義の下における銀行の新しい役割を映し出している。⁽³⁾この銀行活動のレーニンの原理のうちでもっとも重要なものは次の諸点である。すなわち、国内における銀行業務の国家独占、単一国立銀行の創設、金融政策の統一、銀行業務の組織と銀行管理における民主主義的集権主義、銀行店舗網の拡大、全国的な規模での社会的生産物の生産と分配に対する銀行業務に基づく統制の実施である。

銀行業務の国家独占ということは、銀行業務の遂行、銀行の新設、既存銀行の廃止と再編成について国家が独占権を有することである。国家は、銀行業務の国家独占によって、資本主義社会で設立された銀行機関、貨幣資金の蓄積および再分配の装置を手中に収めることができる。また銀行業務の国家独占は、民間銀行の設立によって国有化を破壊しようとするあらゆる試みに対する確実な障害物となり、これにともない新しい社会主

義的銀行制度発展の正常な条件をつくるものであると考えられた。現在、銀行業務の国家独占の原理は、社会主義諸国において銀行業務を組織する上での基礎となっている。⁽⁴⁾

レーニンは、社会主義銀行制度として単一国立銀行設立の必要を述べたが、単一国立銀行の設立は、生産手段の社会的所有と集権的計画経済制度の利点を実施することと関連している。

国家は経済の計画的指導を実施するにあたり、集権的通貨・信用政策を実施する。このためのもっとも適切な手段が単一国立銀行である。⁽⁵⁾

レーニンは、単一金融・銀行政策実施の必要性についてしばしば述べた。レーニンは「銀行政策のテーゼ」の中で、国立銀行の全支店はその全活動が中央当局の指示と指令により指導され、地方の規定および制約は定めないと指摘した。⁽⁶⁾ こうして、レーニンは銀行政策の統一のみでなく、単一国立銀行制度を一層完全に実現する活動形態と方法の統一性を主張した。

社会主義諸国における銀行制度の特徴として、しばしば単一銀行制度、「モノバンク制度」(monobank system)が指摘されている。レーニンも社会主義経済体制における銀行活動の重要な原理として、単一銀行制度の必要性を指摘しているが、こ

の単一銀行制度というのは、一体どういうことを意味しているのであろうか。この点、レフチウク教授は、次のように述べている。「単一および唯一の銀行という概念は、その意味が同一ではない。単一銀行というのは、これは通貨・信用政策、活動の原理、業務の目的と方法の統一性ということである。単一銀行という概念は、新しい社会建設の各種段階で生じた必要条件を考慮した、一定の客観的に必要な限度内での銀行業務の専門化を否定するものではない。⁽⁷⁾」このように単一銀行制度というのは、中央銀行はじめ、預金、貸出などあらゆる銀行業務が特定の一銀行のみに集中されている銀行制度を意味するのではない。現実のソ連・東欧社会主義諸国における銀行制度のように、中央銀行のほかに、産業部門別の特殊銀行が設けられている制度を指している。つまり客観的に必要な限度内で、中央銀行のほかに、特殊銀行が設けられていても、そこに単一の通貨・信用政策、単一の銀行活動の原則、単一の業務目的が貫かれているならば、それは単一銀行制度といえることができる。

レーニンは、全銀行制度の国家的集中的管理、国内全体における通貨信用政策の実施、政府および中央銀行の指示と指令の地方店舗による義務的履行などについて述べている。またレー

ニンは、銀行店舗網を極力増大し、すべての貨幣取引を銀行に集中させることを、銀行の設立とその活動のもっとも重要な基本的原則と考えた。すべての貨幣取引を銀行に集中するということは、全企業および機関がその余裕資金を銀行に保有すること、銀行を通じて決済を行うこと、現金決済を非現金決済に代えることを前提としている。⁽⁸⁾

前述のように、すべての貨幣取引を銀行制度に集中するということは、全国的貸付資金の集中を可能にし、全国的な規模での社会的生産物の生産と流通に対する効果的な管理を行うことができ、経済循環の全国家的管理機関となり、経済効率の向上と品質を改善するために国民経済に影響力を及ぼすことができる、⁽⁹⁾と考えられている。

社会主義の下では、外国為替の国家独占が行われている。外国為替の国家独占は、国の経済的独立を維持し、資本主義貨幣市場の自然発生的現象と投機の影響から国内貨幣流通を確実に擁護するための重要な条件の一つであり、さらには外国為替準備を国家の手に蓄積して貨幣制度を強化する手段である、⁽¹⁰⁾とされている。

以上のような社会主義の下での銀行制度の形成と活動について

のレーニンの原理は、歴史的意義をもっているが、この原理は基本的には社会主義諸国によって実現されている。また、この原理は発展途上国においても国民経済の強化と発展のために利用されている。

二、社会主義諸国の銀行制度

社会主義諸国における銀行制度は、以上のようなレーニンの銀行設立に関する理念に基づいて形成されたが、一九五〇年代中頃からはソ連型の「モノバンク制度」を基礎にそれぞれ国の経済発展段階と社会経済制度に応じた銀行制度に移行している。これは一九五六年のソ連の第二六回党大会で認められた「社会主義への異なる道」の原則が、銀行制度にも影響を与えたことを示している。

かくて、多くの社会主義諸国では、基本的には次のような銀行制度が形成されている。すなわち、銀行制度の中核として広範な機能をもつ中央銀行が設けられている。中央銀行の名称は、各国によりそれぞれ異っているが、国の唯一の発券銀行であり、通貨流通の調節、信用の供与を行い国の決済中心機能である。このほか基本建設に資本供与を行う投資銀行、外国為替

業務に従事する外国貿易銀行などがある。外国貿易銀行は、普通は株式形態で、株主は中央銀行、外国貿易機関およびその他国営・協同組合機関である。このほかにも各種の銀行が設置されている。いずれの諸国にも、一般庶民の貯蓄のための貯蓄銀行が設けられている。ソ連ではズベルカッサ（国家労働貯蓄金庫）と呼ばれているが、ハンガリーの国立貯蓄銀行はその規模も大きく、また業務も多様であり、庶民の金融機関として活動している。

三、銀行の本質的機能

わが国の場合、各種の銀行があるが、普通銀行、すなわち商業銀行に限っても銀行の行う業務は多様である。一般的に、銀行の行う業務は銀行の本質的業務と付随的業務とに分けられるが、預金の受入れと資金の供給をもって銀行の本質的業務であるとする考え方にはほとんど異論がない。

(一) 預金の受入れ

西側先進諸国における中央銀行の本来的機能を大別すると、次の四つに大別することができよう。すなわち、①銀行券発行銀行としての機能、②銀行の銀行としての機能、③政府の銀行

としての機能、④金融政策の運営である。このように中央銀行の本来的機能からみれば、ソ連、東欧社会主義諸国の中央銀行もこれとほぼ同様の機能を遂行しており、一見それほど大きな差異はみられない。しかしながら、これら諸国経済の中央集権的な性格を反映してその組織構造、機能、業務の運営面ではかなりの相違がみられる。この点については、後でやや詳細にふれることとするが、これら諸国における中央銀行は、以上の本来的業務のほか、多数の業務を行っている先進諸国の一般的な金融機関としての役割をも果している。すなわち、中央銀行は、原則として国の発券銀行であると同時に、商業銀行、投資銀行、貯蓄銀行および決済機関として多面的な機能を遂行している。

社会主義諸国の中央銀行の重要な機能は社会的生産の拡大と生産効率向上のために全国的貸付資金（預金）の管理である⁽¹⁾、といわれている。これは前述の通り銀行の本質的業務の一つを預金とみれば当然のことであるが、この全国的貸付資金の管理には、中央銀行のほかに部門別銀行および特殊銀行も積極的に参加するが、これには次の二つの意味がある。その一つは銀行がその貸付資金源としての余裕資金を吸収蓄積すること

であり、第二は吸収した資金を企業・機関、住民、外国の借りに手に供給することである。

このように、社会主義諸国の銀行といえども銀行であるからには、西側先進諸国の一般の銀行と同様、本質的業務を営んでいることに変わりはない。銀行は、貸付資金（預金）の吸収、蓄積なくして信用を供与することはできない。これら諸国における企業・機関は、法律によりその余裕資金を銀行口座に預入しなければならぬことになっている。これが銀行の貸付資金の主要源泉の一つであるが、銀行を通じて支払者の勘定から受取者の勘定へ繰り入れられる資金も性格上これに近いものである。

社会主義諸国においては、最近国民の福祉の向上と貨幣所得の増大にともない、銀行もしくは貯蓄銀行の勘定に預入される国民の貨幣貯蓄も貸付資金の大きな源泉となっている。貯蓄銀行は、国民の貯蓄預金を中央銀行のコルレス勘定に預入し、中央銀行はこれを貸付資金として銀行信用の形で生産的に利用する。

このほか、銀行の貸付資金源となっているのは国家予算資金である。それは過去においてまたは本年度において生じた歳入

超過にともなう資金余剰である。予算資金の利用は、社会主義諸国においても貸付資金源として重要なものとなっている。同時に、中央銀行は保険機関、労働組合、その他公共機関の余裕資金、これら機関の定款基金、準備金および特別基金を受け入れている。

このように、全国家的貸付資金を計画的に蓄積し、管理することが、国営およびコルホーズ・協同組合の企業・機関の財務状態を健全なものにするとされており、個々の国営・協同組合の企業・機関は勝手に生産的支出、基本建設費にあてるために、巨額の資金を蓄積してはならないことになっている。個々の企業・機関は全国家貸付資金を計画的に利用しながら、銀行制度を通じて資金を生産向けにまた基本建設に使用することがもっとも経済的であり、合理的であると考えられている。

(二) 資金の供給

銀行の第二の本質的業務は、貸出など資金の供給を行うことである。銀行の手許に集中された預金の一部は手許に残るのど、銀行はこれを貸出や有価証券投資に振り向けることができる。つまり銀行は資金を必要とする経済主体に対し融資するのである。

現在、社会主義諸国ではいかなる経済部門といえども、銀行信用を利用しないで運営することはできない。銀行はその貸付資金（預金）の主要部分を短期貸付の形で経済機関および住民に融資を行う。この場合の短期というのは期間一年以下の貸付ということである。銀行は、生産物・サービスの生産・分配計画に基づいて信用によって企業および経済機関の経常的な資金需要を保証し、またその運転資金が形成される。新製品、新機械、新技術などの開発費にあてるための費用も銀行信用によって賄われる。また貸付資金は基本投資の実現、すなわち新規企業の建設、既存企業の再建、新技術および新技術工程の導入、消費財の増産などにも利用される。銀行は個人および協同組合の住宅建設その他について農村協同組合および農村住民にかなりの貸付を行っている。

西側先進諸国における銀行融資は、有利な融資対象に最大限の利潤を求めて行われるのが原則である。これに対し社会主義諸国における経済機関、住民、外国に対する信用供与は、経済・社会発展計画の構成要素となっている信用計画に基づいて行われる。社会主義諸国では、経済部門別、企業、経済機関等に対する貸出額および対象は、国家計画で見込まれている生産発

展および国民の需要を充足する社会・経済的条件によってきめられる。

以上は社会主義諸国の銀行の短期貸付の形での銀行信用について述べたのであるが、もう一つの銀行の重要な機能としては、設備投資（基本建設）のための財政資金からの償還を要しない資金供与と設備投資のための信用供与をあげることができよう。すなわち、新規固定ファンド（資産）の建設、既存固定ファンドの拡充もしくは再建、大修繕を賄うための資金は銀行によって財政資金からの償還を要しない資金および銀行信用によって賄われる。この機能の遂行は全国家的な重要性をもっていることはいうまでもないが、国家の生産計画の遂行、経済発展の均衡および見通しは、基本建設（設備投資）がどのような規模で、どのように行われるかに大きく依存する。この点は先進諸国においても変りはない。

生産設備の建設および稼働の遅滞は、生産高、経済機関の生産的・技術的製品に対する需要、国民の消費財に対する需要充足に影響を与える。このため、適時の、しかも的確で十分な資金供与は基本建設の効率を向上させるためには重要な意味をもっている。

銀行は基本建設のための投資にあてる資金を吸収するが、その源泉となるのは国家予算支出、企業合同および経済機関の利潤、減価償却、生産発展、社会・文化施設・住宅建設基金の資金である。設備投資のための資金供与は、信用供与と異なり償還を必要としない資金供与である。

このように、基本建設資金を銀行からの信用供与によらないで、償還を要しない資金供与による方式は、社会主義の下での直接的な計画的な経済運営方法に適合するものであると⁽¹²⁾考えられている。このため、ソ連、その他社会主義諸国では長年の間この方法が実施されてきた。しかしながら、ソ連では一九六六年からの経済改革実施以後、設備投資資金について財政資金からの無償供与制を改め、漸次銀行信用へ移行する方針をとってきた。主として国家予算からの無償供与制の下では資金の使用について関心が低いのは当然であり、したがって浪費傾向がみられ、大きな問題となった。つまり資金の効率的使用の上で好ましくないわけである。

企業の基本投資資金の銀行信用への移行は、企業・機関としては、銀行から借り入れた資金を一定期限内に一定の金利をつけて銀行に返済しなければならぬので、その効率的使用につ

いて十分な注意を払わなければならない。しかし銀行信用への移行は当初期待されたほど進捗していない。現在、社会主義諸国では、基本建設投資の大部分が財政資金からの無償供与制で行われている。その対象となっているのは、発電所、幹線鉄道・道路、近代的な金属、機械製作および石油化学企業であり、これらはほとんど完全に無償供与制で行われている。

以上、銀行の本質的業務の一つである全国家的貸付資金（預金）の管理機関としての社会主義諸国の中央銀行の機能について述べた。もう一つの社会主義諸国の中央銀行の機能はいうまでもなく国内における現金貨幣の流れ、すべての貨幣経済を計画的に組織し、現金貨幣のあらゆる流通を計画的に管理する唯一の銀行券発行銀行としての機能である。この機能は現金貨幣の発行および還収を前提としているので、当然のことである。

社会主義諸国においても、中央銀行のみが西側諸国におけると同様、現金貨幣を発行し、還収する権限を与えられていることはいうまでもない。この中央銀行以外のいかなる機関もこれを行うことはできない。

中央銀行は経済・社会発展国家計画に基づいて貨幣流通を組

織し、計画化し、調節するが、その発券活動は、単一国家計画の構成要素である国民貨幣収支バランス、⁽¹³⁾信用計画⁽¹⁴⁾および現金計画に基づいて行われる。国民貨幣収支バランスは、国民経済計画の一環として、ソ連の場合ではソ連国家計画委員会によって作成され、現金貨幣循環の規模と構造、流通に必要な通貨量が計画化される。現金計画は、国民貨幣収支バランスに基づいて中央銀行が作成するもので、国内の現金貨幣の循環を組織する実行計画としての役割を果している。現金計画には現金貨幣のみの取引が反映するが、国民貨幣収支バランスには中央銀行の窓口を通らない貨幣取引、非現金決済で行われる一切の国民の貨幣所得および支出が計上される。

現金計画の作成および実行の目標は、国民経済に必要な現金貨幣を供給し、国内の貨幣流通を健全化することである。すなわち、過剰通貨の結果、インフレーションが生じ、生産、流通、国民生活に悪影響を及ぼさないようにすることである。つまり中央銀行は、発券銀行としての機能を遂行するに当り、商品の生産と販売の実現過程を促進し、国内における経済循環に対する管理を行い、生産過程の集約化を助ける役割を果している。

社会主義諸国の中央銀行も、西側諸国のそれと同様に国家予算の出納業務を行い、国家予算資金の受入れ、保管を行い、予算資金支出のためにそれぞれの機関に交付し、さらにその計算と動きを規制する。

以上のように、国民経済および国家に対するすべての出納業務は、中央銀行である国立銀行に集中されている。このことから中央銀行が国の現金出納センターといわれる所以でもある。

中央銀行はまた国の単一の決済中心機関としての機能を果している。これは経済主体および国家の余裕資金が銀行勘定に集中保管されることと関連している。もともと、ここでいわれる、国の単一の決済中心機関であるということは、ただ中央銀行一行のみが国の決済を行うということの意味するものではない。決済の一部が他の銀行によって行われていても、その大部分が広範な店舗を有し、主たる取引先に奉仕する中央銀行を通じて行われることを指している。

わが国では、外国為替業務を営むには大蔵大臣の認可または免許を受けなければならない。したがって、政府から認可された外国為替公認銀行のみが外国為替の売買を行うことができ。現在、認許可を受けている外国為替公認銀行は都市銀行を

はじめ、地方銀行、相互銀行など多数に上っている。このような事情は、西側諸国では多かれ少かれ同様である。

これに対し社会主義諸国では外国為替の国家独占が行われている。外国為替の国家独占は、社会主義国家が政権を握り、すべての金・外貨準備をその手中に収め、外国貿易の国家独占を行い、国有・公有化された銀行にすべての国際信用と決済を集中したことによって行われるようになった。

外国為替の国家独占ということは、国家の手中への金・外貨準備の集中、計画的な外国為替業務、国内での外貨、金、プラチナ、その他外貨証券の取引などに対する国家の独占権を内容としている。

社会主義諸国の中央銀行は上記の業務を遂行しているが、中央銀行以外の銀行、とくに外国貿易銀行に為替業務を委託することができ、外国貿易銀行は窓口業務を行い、自国の外国貿易機関、ならびに外国の銀行および商社に対し融資し、外貨による決済を行っている。その他の銀行も中央銀行によって与えられた権限の範囲内で外国為替取引を行っており、国営大企業、協同組合機関も一定の外国為替取引を行う権限が与えられている。

社会主義諸国における外国為替の国家独占は、外国貿易の国家独占とともに、資本主義市場の自然発生的な変動による影響から守るものであると考えられている。

四、金利機能と信用統制

社会主義諸国においても、企業・機関および個人が銀行から資金を借入れた場合には、企業・機関はその使用料として銀行に金利を支払わなければならないし、一方、企業・機関および個人が銀行に預け入れた預金に対しては金利が支払われる。

金利の機能としては、一般に景気調整機能と資金配分機能があげられる。景気調整機能とは、金利の変動を通じて景気波動を調整する働きであり、資金配分機能とは、金利の高低やその変動によって資金が各部門に配分される働きであり、金利の自由な変動によって資金の最適配分が達成される。金利がこのような機能をもつことから、西側諸国においては金利は経済情勢に応じて変動している。

これに対し社会主義諸国においては、金利はどのような役割・機能を果しているであろうか。ソ連の「財政・金融辞典」(一九六四年モスクワ発行)では、金利の機能について次のよ

うな説明が加えられている。「……銀行の貸付金利の徴収は、経済計算の実施によるものである。支払金利の額は借入れ金額および期間のいかんによる。このことから、金利はまた借入れ資金のもっとも合理的な利用を刺激する手段であり、経済機関に対し資金の回転促進や借入れ金の迅速な返済について刺激を与える。このため、金利は節約や経済計算制の強化に役立つ。返済期限を超過した貸付金については、銀行は割高な金利を徴収するが、このことは信用節度の強化を助けるものである。

(15)「……また、ソ連科学アカデミー編「経済学エンサイクロペジア」第三卷一九七九年モスクワ発行では、次のような説明が加えられている。「社会主義社会における金利は、借入れ資金の利用に對して支払われる社会主義企業の純所得の一部である。金利は、信用特有の価格である。金利は、国家によって国民所得の再分配、ならびに社会主義企業の独立採算的活動の刺激手段として利用される。金利の大きさは信用の量およびその利用期間のいかんによる。社会主義の下においては、金利は自然發生的な變動の影響を受けないし、国家が計画的に金利の額を決定する。……」(16)

以上の簡単な説明によっても明かな通り、社会主義諸国にお

ける金利の機能には、西側諸国におけるような景気調整機能も、資金配分機能もなく、資金の合理的な利用、資金の回転促進、借入れ金の迅速な返済などが金利機能として重視されている。金利水準も、上述の通り国家が計画的に決定しており、西側諸国におけるように、資金の需要・供給の関係によってきまるのとは異っている。このことも、銀行信用が信用計画に基づいて行われる集権的計画経済諸国においては当然のことである。

一九六五年九月のソ連の経済改革に関する共産党・ソ連政府の決定では、経済計算制強化の手段として、金利の役割とその重要性が指摘され、資金の効率的使用を促進する手段として重視されるようになった。すなわち、従来、ソ連の金利は低水準で、しかも固定的で、ほとんど変更されなかったが、経済改革の実施以後は融資対象、期間などにより金利に差等が設けられ、従来よりは変更されるようになった。

ソ連の金利政策の推移をみると、次の三つの段階に分けることができる。第一段階は、社会主義形成時から一九三四年の信用改革の終了と金利の決定がソ連政府に移行されるまでの時期であった。この段階では金利政策の基礎が置かれ、金利に差等

が設けられた。第二段階は一九三四—六六年までで、この段階では金利は一層引き下げられ、金利の統一化が行われた。借入れ金利を生産物の原価に算入することにしたが、借入れ資金利用の節約を刺激しなかった。第三段階は一九六六年以降で、一九六六年からの経済改革実施過程で金利の引上げ政策が実施され、貸付の種類毎に金利に差等が設けられた。⁽¹⁷⁾

以上のような推移を経て、現在のソ連の貸出金利水準は、貸出の経済的性格、対象、貸出期間のいかんにより年一ないし八%の水準にきめられている。輸送途中の商品・物的財貨に対する貸出金利がもっとも低く年一%であり、もっとも金利が高いのは、借入れ金の返済が適時に行われない場合で八%である。季節的規準超過商品在庫調達のための貸出および季節的費用の貸出金利は年二%である。

また、基本建設のための投資資金の貸出金利については、ソ連国立銀行は国营企業に対しては年二%、コルホーズについては年〇・七五%である。ただしソ連建設銀行から借入れられる場合は年〇・五%と低い。ソ連国立銀行の預金については、コルホーズ預金に対してのみ年〇・五%の金利が支払われる。国家労働貯蓄金庫（ズベルカッサ）の預金金利は年二ないし三%であ

る。⁽¹⁸⁾

ソ連以外のその他社会主義諸国の金利水準は年二%ないし四%であり、借入金返済が延滞した場合には、中央銀行である国立銀行によって高金利が徴収される。チェコスロバキアおよびブルガリアの延滞利子は、普通金利の約二倍以上である。また東ドイツの延滞利子は年一二%、ハンガリーでは年一八%である。これらの国では金利に差等が設けられているが、これは企業の独立採算的な活動と社会的生産の効率を向上させるためである。⁽¹⁹⁾

以上、社会主義諸国における銀行金利の機能をみたが、銀行の役割において見逃すことができないことは、経済計画を遂行するための信用統制であろう。

西側諸国における金融政策が通貨量を調節し、間接的に企業の生産および投資に影響を与えるのに対し、社会主義諸国における信用統制は、きわめて直接的である。これら諸国における信用統制は中央銀行に集中しており、その統制は金融全般、ならびに企業の経済・財務計画にまで及んでいる。ソ連では、信用統制を「ルールによる統制」（コントロール・ルブリョム）と呼ばれている。その意味について、ソ連科学アカデミー

編「経済学エンサイクロペヂヤ」は次のように説明している。

「ソ連で行われるループルによる統制は、再生産過程での生産手段および労働力の計画的・合理的利用、社会のために単位費用当り最大の成果をあげるために、国民所得を含めた社会的総生産物の生産と分配に対する資金統制である。広義のループルによる統制は、価格、利潤、財政、信用、商品・貨幣関係およびそれと関連する価値範疇から生じるその他の経済的てこによって、社会主義国家が実施する統制である。⁽²⁰⁾」その重要な対象としては次の項目があげられている。「ループルによる統制の重要な対象は、賃金基金（したがって、労働生産性指標および雇用者数も）、固定資産と流動資産、その改善と目的に合致した利用、商品化生産物の原価とその形成要素、基本投資、その利用効率、生産の経済的刺激フォンド、その形成と配分、財政・信用制度に対する義務の履行である。⁽²¹⁾」

このように、「ループルによる統制」対象は、かなり広範であるが、統制の中心的役割を果しているのが、ソ連国立銀行である。国立銀行の各店舗は、貸出、決済、出納業務の過程で「ループルによる統制」を実施する。これをやや具体的にみると、国立銀行は企業・機関に貸出を行う場合、その借入れ申請

が経済計画と合致しているかどうか、また融資をうけるプロジェクトがもつとも経済的な方法で遂行されるかどうかを確認するために、借入れ申請の目的を審査する。そのうえ、銀行は企業・機関との信用取り決めに合致するように、信用の利用についてつねに監視を行う。さらに、計画を履行しない企業・機関に対しては銀行は各種の罰則措置を構ずる。

信用統制の重要な分野は、賃金基金に対する統制であり、企業・機関が賃金基金から労働者・職員の賃金・俸給を引き出す際に、銀行が規制するのである。賃金基金は企業毎に計画がたてられ、賃金基金からの払出しは、企業の生産計画の遂行状態に応じて行われることになっている。したがって、国立銀行は、企業・機関が生産計画の遂行に応じて賃金基金から現金の払出しを行っているかどうかを監視する。このように、国立銀行が企業・機関の賃金基金からの払出しに厳しい統制を加えるのは、通貨流通の健全化をはかるうえできわめて重要であるからである。というのは、国立銀行の窓口から払い出される現金貨幣の大部分が勤労者に対する賃金・俸給である。

以上、集権的計画経済体制をとっているソ連・東欧諸国における銀行の役割をみた。これら諸国の銀行も西側諸国の銀行と

